



答弁中の中嶋町長

子どもたちの学習環境向上のために

エアコン導入には議論

文科省によると、全国の公立小中学校の空調設備設置率は約30%です。本年ついに、普通教室への設置が、特別教室を逆転し急増する結果となっています。近年の猛暑対策として、エアコンの設置を選択する自治体が増え続けています。また、PM2.5などの汚染物質から子どもたちを守るためにも、有効な対策と思えます。本町は、校舎の耐震化、中学校給食、幼稚園の建設など抱えており、容易ならぬ事業と思えますが、環境の変化は急速です。まずは、設置を指しての調査研究が必要と思えます。



教室に設置されている扇風機（第一小）

胃ガン検診にピロリ菌診断を

実施で検討

平成25年2月から慢性胃炎の治療についてピロリ菌の除菌が保険適用となり、胃がん対策としては大きな前進をしましたが、これには内視鏡検査での確定診断が必須です。そこで、予防の観点からの対策を進めるために、胃がん検診においてもピロリ菌診断・除菌を採用することが胃がんリスクを無くすために効果的と思えますが、町長のご見解は。



田ノ上真 議員

安河内教育長 1教室の設備費を170万円とすると、小中学校5校（165教室）で、初期事業費として2億8千万円、年間の維持費（電気代）が2千万円

町長・教育長のご見解はいかがでしょうか。現在、普通教室には扇風機を2台設置しており、また、発汗作用を即す体温調節機能や体力作りなど健康的な観点からも、エアコン導入については議論があるところです。しかし、近年、夏の酷暑が問題となっており、他市町の進捗状況等によって、将来的にはエアコンの整備は必要になると考えています。

中嶋町長 現在、厚生労働省で、がん検診のあり方に対する検討委員会が設けられ、ピロリ菌の問題について鋭意研究がなされているところです。須恵町では、検診項目に加えるよう検討したいと思えます。

介護支援ボランティア制度の導入は

第6期介護保険制度の状況をみて

問 団塊の世代が65歳を越え、介護を必要とする人が増えてくるのは目に見えています。高齢者が介護ボランティアを知ること、参加することで健康増進、介護予防、また、社会参加、地域貢献を通じた生きがいづくりができるのではないかと思います。また、介護予防効果への期待だけではなく、地域活性化や住民同

士のつながりの強化を図り、高齢社会を乗り切る地域づくりにつながるものだと思います。この制度はボランティアをする人、受ける人だけでなく、施設や町にとっても、さまざまなメリットがあると思えます。

答 中嶋町長 団塊の世代が後期高齢者になる「2025年問題」は、今の介護保険を守り抜くためには、非常に大きな問題となっています。高齢者の方が、やりがいを持って介護予防に努めるシステムを作ること、高齢者みずからがボランティアとして社会参加や



柴田 真人 議員

地域貢献をしていくことが、これからの高齢化社会を迎えるためには大事なことであり、近隣では、篠栗町が福祉施設と連携して介護支援ボランティア制度（※ポイント制）を導入しています。ポイント制については、今後第6期の介護保険制度の改正において検討されていくことが予想されます。本町でも導入するとなれば、福祉流通券での経験もありま



篠栗町のボランティアカード

※ポイント制 高齢者が介護支援等のボランティア活動に参加した際にポイントが付与され、たまったポイントに応じて、商品券等との交換・換金・寄付などができる仕組み。

ですので、すぐに対応できるのではないかと思います。これまでの取り組みの充実を推進を図り、高齢者の活躍の場として支援を進めたいと考えています。

福祉流通券での経験もありま